

2050年室蘭市ゼロカーボンシティ検討チーム 第1回 ワークショップまとめ

1班

環境

砂漠化する地域が増え水不足が深刻化する

農業

農業をするにあたって、適した雨が降らなくなる

気温上昇

2050年になると気温が上がり、30°C近くの気温になる

熱中症の被害が増加する

2050年になったら室蘭市の平均気温が更に高くなっている

人口減少

2050年には、働く人の割合は45.5%と低下してきている

働く人が減ってきている

活動

子供のために、学校でかかるお金を減らす

人口減少しないように市民に援助する

人口

若い人がいられるような町

若者の地元ばなれ

子供が多くいられる町

環境

製造業による排出ガスを減らす

対策

熱中症になる人を減らすために、冷房などを設置する

仕事

学生や教師の減少 ⇒ 合併

医療・介護関係者の仕事の負担が大きくなる

よりよく働ける環境を作る

働く人が増えるような

介護

高齢者の人が安心して介護を任せられる



2班

経済

雨や気温の影響で農作物が値上がりしたり、育たなくなる可能性
⇒食文化が変わったり、北海道の農作物がなくなる

海の温度が上昇し、漁業での経済が回らなくなったり、魚が値上がりする

生物

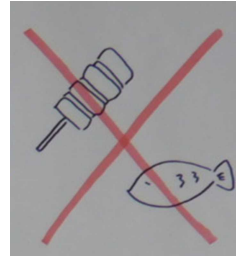
食料が不足する
海洋汚染で生態系の損失

気温が上がると動物の住む環境が変わって生態系に影響がでる

産業

漁業や経済が盛んでなくなり、「室蘭と言えば」というものがなくなってしまう

就業人口の減少により、産業が衰退していく



自然

日本の特徴である四季がなくなる（夏が長くなり、冬が短くなるなど）

異常気象が増えてその影響で災害が増える

森林火災が起きやすくなり、森だけでなく、そこにいる動物にも影響がおよぶ

短時間で大雨が降りやすくなるため、土砂災害や浸水などの被害の可能性

海面上昇が起これ、海の浸水や高潮が起これやすい危険

人

このまま人口減少していくと働く人が減って、室蘭の活気が落ちてしまう

働く人が減ると会社がつぶれたり、経済が回らなくなってしまう

人口・職業

教員が生徒を見る時間が多くなってしまう

介護関係の仕事に就く人が減少
⇒1人あたりの負担が増加する

さらなる人口減少
⇒患者数の減少が進む

児童・生徒数が減少し、教員数も減るが、教員の1人あたりの負担が増える

子供の数が減少する
⇒保育・教育に関する業務に就く人が減少する

人口が減ることで、高齢者を支える職業などが成り立たなくなってしまう危険

介護の仕事について1人あたりが受け持つ高齢の方の数が増えていて、介護する人が仕事が大変になり、高齢の方が十分に介護を受けられなくなる

若い人が減少することで、教員や医者などの負担が大きくなり、その職業に就きたい人が少なくなってしまう

島

海水面の上昇により、氷が溶け、小さな島がなくなる



室蘭市全体

違う市と合併してしまう

室蘭に活気がなくなると、住みたい人が減るとともに、室蘭市がなくなってしまう可能性

人口が減り、保育所や学校の数が減ると、新しく室蘭に住みたいと思う人が減ってしまう

室蘭にある学校など、学問に関わる大切な仕事やその施設自体がなくなってしまう可能性

3班

気象

洪水・大雨が増える

台風、ハリケーンなどの異常気象が多く起きるかも...

気象の変化が激しいことが多くなり、住みにくくなってしまふかも...

海面上昇

海の温度が上がると北極の氷が溶けて、海面が上がる

海面上昇 ⇒ 漁業がやりにくくなるかも

北極、南極の氷が溶けてなくなってしまうかも

人口が減って公有財産や道路に関する維持費・負担が増える

小中学校の統廃合が多くなる

人口

仕事

介護

介護者と介護する人のバランスが合わなくなる

仕事に就く人が減るため、介護士が一人当たり担当するお年寄りの数が増える

産業の面ではあまり影響を受けない？

農家の人が苦しくなる

暑さを感じてしまうことが多くなり、熱中症の被害が大きくなるかも...

仕事・産業

市外への室蘭のアピール

働く人が少なくなる

一人あたりの仕事量が増える？

就業者が減る

生産人口の低下

人口減による保育人材の低下

ものづくり人材の低下

問題点

病院に通院する人が多くなる

ウイルスが流行ったときの病院のベッド数

まちのまなび（室蘭について）は、どうなるのか

避難所を増やす！

エネルギー

新しいエネルギーがはやっていけばいいな（水素とか）

風力発電などをたくさん利用する

人口

高齢者が増える

少子高齢化が進む

人口が減少する

死亡者が多くなる ⇒ 葬式ができなくなるかも

志望者が出生数を上回る